

4

アルコールとゲーム障害

Alcohol and gaming disorder



独立行政法人国立病院機構
久里浜医療センター

松崎 尊信

Takanobu Matsuzaki

Summary

依存には、アルコール・薬物などの物質使用障害とギャンブル障害などの行動嗜癖があり、それぞれ共通点や異なる点がある。最近、ゲーム障害が新たに行動嗜癖に分類されることとなり、物質使用障害、特にアルコールとの関連性についていくつかの研究結果が報告されている。アルコール依存症とゲーム障害では、臨床的には渴望など共通の症状もあるが、好発年齢や物質による化学毒性、ゲームによる視覚・聴覚的刺激など、異なる要因も多い。このような共通点や相違点などの特徴を踏まえつつ、これまで蓄積されてきた物質使用障害の知見が、新たな概念であるゲーム障害の診断や治療法の開発などに繋がるよう、今後もさらなる研究が発展していくことを期待したい。



Key Words

物質使用障害, 行動嗜癖, ゲーム障害, アルコール依存症, アルコール使用障害

はじめに

依存には、アルコール・薬物などの物質使用障害 (substance use disorder) と、ギャンブル障害 (gambling disorder)、窃盗癖、性依存、買い物依存などの行動嗜癖 (behavioral addiction) がある。両者が同じ依存という疾患カテゴリーとして捉えられるかについては、これまでさまざまな議論がなされてきたが、多くの研究により、物質使用障害と行動嗜癖の類似点あるいは相違点についての知見が集積され、2013年に米国精神医学会 (APA) が発表した精神疾患の診断と統計の手引き第5版 (DSM-5) では、ギャンブル障害が物質使用障害と同じ「物質関連障害および嗜癖性障害群」に分類され、ゲーム障害 (gaming disorder) が今後の研究のための病態の項目に追加された¹⁾。さ

らに、世界保健機関 (World health organization : WHO) の診断基準である国際疾病分類 (International classification of diseases : ICD) の第11版への改訂に合わせ、インターネット依存を診断基準に含めるかどうかについての専門家会議が2014年から毎年秋に開催されている。そして、2019年5月、「ゲーム障害」がギャンブル障害とともに、嗜癖行動による障害 (disorders due to addictive behavior) へと分類されたICD-11が、WHO総会において承認された²⁾。今回、物質使用障害と行動嗜癖の関連、さらにアルコールと最近注目されているゲーム障害との関連について述べてみたい。

物質使用障害, 行動嗜癖の一般的特徴

行動嗜癖に必須とされる特徴は、それが自分や他の